

1 ICTを導入した学びの目的

情報活用能力の習得

基本的な操作
問題解決・探究における情報活用
プログラミング

学びの協働化

みんなで創りあげる授業
(協働的な学び)

①

小規模校における
学びの多様性

②

不登校児童生徒
の多様な学び

③

全員参加の協
働的な学び

④

振り返り学習
への活用

⑤

動画等による
家庭での予習

⑥

ドリル等による
家庭での復習

■教育クラウド
■1人1台端末

主体的な学びを深める

情報モラルの習得

系統的な情報モラル教育
情報セキュリティ

学びの個別化

個に寄り添った学び
(個別最適な学び)

2 推進のための体制整備

1) ICT活用推進

① ICT教育推進委員会

- ・有識者、校長会代表、教頭会代表、教育委員会事務局
- ・年4回開催

②教育指導専門主査の配置

- ・学校支援の窓口、ICT教育を推進
- ・週1回、東原氏の指導を受けて推進状況を確認

③東原義訓名誉教授による指導

- ・9中学校区を3回ずつ訪問 計27回の学校訪問指導
- ・飯田市のICT環境整備への助言
- ・校長会への助言

④中核教員研修

- ・各校のICT推進役の教職員1名
- ・信州大学次世代学びセンターによるオンライン研修会 年3回
→佐藤先生、森下先生
- ・放課後相談会 5回
- ・中核教員が、受けた研修をもとに各校の先生方へ活用を推進する

2) 情報モラル教育

①情報モラル教育推進委員会

- ・有識者、校長会代表、教頭会代表、教育委員会事務局
- ・年4回開催

②南澤信之氏による全小中学校での情報モラル講演会

- ・全小学校 1, 2年 3～6年 2回実施
- ・全中学校 全校対象 1回 実施

③保護者対象情報モラル講演会の実施

- ・PTA講演会で実施した学校複数

④南澤氏による個別事案指導

- ・教育委員会と共有した事案 3件

⑤家庭への持ち帰り学習運用基準 ※別紙

- ・南澤先生の情報モラル講演会を受けた
- ・学校のパソコン使用のきまりを作成した
- ・保護者の理解が得られた
- ・持ち帰りの目的がはっきりしている
- ・情報モラル教育が浸透し、持ち帰りをしても安全に使用できると
学校長が判断できる

⑥各校におけるルール作り

- ・各校における自主的なルール作り ※別紙
- ・市の統一基準 ※別紙

3 進捗状況

1) 年度方針

学力の保証・向上

- ・学力向上「結プラン」の徹底
- ・「お互いを認め合える」授業づくり
- ・ALTと協働した外国語教育の充実
- ・「読解力」を意識した授業づくり
- ・自ら考え、主体的に取り組む家庭学習

人間関係づくり

- ・不登校対策・5つのアクションプラン
- ・「お互いを認め合える」集団づくり
- ・特別支援教育の充実
- ・いじめ・児童虐待の早期発見と組織的な対応
- ・多様で選択的な学びの場・居場所づくり

C. 探究的な学び

教科横断的な課題解決

A. 協働的な学び

教科等の対話的な学び

B. 個別最適な学び

個に応じた主体的な学び

授業での活用

- ・インプット
- ・アウトプット
- ・コミュニケーション

Classroomを活用した授業づくり

学校生活での活用

- ・健康観察で
- ・一日の振り返りで(家庭学習も含む)

いつでもどこでも

情報活用能力

(日常的な活用)

◆ 基本的な操作等

◆ 問題解決・探究における

◆ プログラミング

◆ 情報モラル・情報セキュリティ 3

2) 活用事例

① 好事例と思われるもの

①

音楽科 動画を見ながら個人練習

②

体育科 動きを動画撮影し、自分の動きを振り返りながら修正する。

③

植物の成長を写真に記録
小1「あさがお」の観察も夏休みに実施

④

社会科 都市部と農村部の課題と対策をJamboardで整理し、意見を共有する

⑤

社会科 縄文時代と弥生時代を比較し、気づきを共有

※別紙

⑥

国語科 物語の場面を図式化
家庭学習にて、授業で作成した図をもとに主題を考える

⑦

算数 自分の考えをjamboardで共有し、友達の考えと比較、考えを深める

⑧

理科 予想、実験中の気づき、実験結果、考察をスプレッドシートで共有し、考えを深めた

⑨

ドリルの活用
各自のスピードに合わせて、授業の週末にドリル学習

⑩

児童、生徒、保護者 アンケート
学校生活に関するアンケートや学校評価アンケートをformsで集計

② 課題事例と思われるもの

①

グループの話し合いで活用
目の前にいるにも関わらず、声に出さずに、パソコンで会話をしている

②

漢字の書き順を電子黒板で指導
子どもたちに背を向けての指導になってしまい、子どもたちの様子を
確認できていない

③

検索機能のみの使用にとどまり、同時共同編集機能や、個別最適な学びに活かされていない。

4 課題事案の発生状況と対応

1) 『システム（仕組み）』によるリスクマネジメント

① 有害・危険サイトやネット犯罪の被害を防ぐ

Webフィルタリング

◇ Webフィルタリングを適切に実施するとともに、情報を集め、その精度を高める

■ 不適切サイトへのアクセスをブロック
(具体的なブロックサイトは別紙)

・ 不法・アダルト・動画配信・SNS・過激な表現 等

■ 不適切サイトへの接続情報を学校から集め、対象URLを個別にブロック、随時精度を高めていく

■ 必要に応じて接続ログ（ブロック済みサイトへの試行情報を含む）を取得

■ 時間によるインターネットへの接続制限

小学校低学年	19時
小学校高学年	20時
中学生	21時

② いじめやトラブルの起点になることを防ぐ

アプリケーション制御

◇ コミュニケーションアプリによる「（教師が把握できない）閉じたコミュニケーション」を、制限する

■ Gmail → 『使用不可』

■ Chat → 『使用不可』

■ Meet (Web会議アプリ)

- ・ 『開催権限を教師アカウントに限定』
(子どもだけでは使用できない)
- ・ 『児童生徒による録画不可』

■ You Tube → 『使用不可』 動画は「NHK for schoolのみ」

■ 新しいアプリはインストール不可